

## 組織目標評価報告書（令和 2 年度）

部局名： 大学院保健学研究科

部局長名： 中塚幹也

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人の大学院受験者の増加を目的に、入試科目の変更を検討する。</li> <li>助産師養成コース、医学物理士養成コースの実施とともに、ゲノム医療サイエンティスト育成コースを開設する。</li> <li>検査学専攻・分野の生殖補助医療技術キャリア養成特別コース、看護学専攻・分野の助産学コースにおいて、学部・大学院一貫体制での教育を推進する。</li> <li>大学院における現行の助産師リカレントプログラムを推進するとともに、新たな分野、あるいは、分野横断・連携型のリカレント教育の実施に向けて検討する。</li> <li>教育の質保証に向けて、複数教員による大学院生の指導体制を推進する。</li> <li>学位プログラムの開講に向けて、現行の各種のプログラム・コースの見直しと、分野統合的な観点で新たな計画を検討する。</li> </ul>	33②、9⑤、14①、26③、52②	外国人の大学院受験者を増やすため、日本語検定の受講を免除し、面接で日本語を評価することとし、受験者、合格者を得た。 助産師養成コース、医学物理士養成コースを実施するとともに、新たにゲノム医療サイエンティスト育成コースを開設した。
<b>②研究領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発・推進委員会における議論を進め、保健学研究科内の分野間、また、ヘルスシステム統合科学研究科などの他研究科との間の共同研究を促進する。</li> <li>研究開発・推進委員会等において、地方自治体、企業等との共同研究、受託研究・事業の獲得に向けて検討する。</li> <li>研究開発・推進委員会において、論文数や外部資金獲得数などを分析し、特に、若手教員、大学院生の研究推進を支援する。</li> <li>研究力のある女性教員、若手教員の採用に努めるとともに、国内外からの客員研究員などの受け入れを推進する。</li> <li>科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。</li> <li>SDGsを推進する研究や活動を社会に発信するため、SNSなども含めた広報を開始する。</li> </ul>	33②、46①、48①、79①、85①	研究開発・推進委員会等において、地方自治体、企業等との連携に向けて検討し、受託事業を実施し外部資金を得た。 研究開発・推進委員会において、論文数や外部資金獲得数などを分析し、特に、若手教員、大学院生の研究推進を支援するため、各県獲得のためのセミナーを実施、また、科研獲得者による申請書の添削を実施した。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>周産期医療、地域母子保健に関与するスタッフのスキルアップやリカレント教育による「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを継続し、施設枠の受講生の受け入れ制度を新設、地域医療の質の向上を目指す。</li> <li>地方自治体や職能団体の委員会等に参加・協力して、地域行政、医療、保健、福祉などの施策に貢献する。</li> <li>COVID-19感染拡大下での方法を検討し、保健学研究科が中心となって、また、地方自治体や職能団体と連携して、医療、保健、福祉などに関する公開講座等を開催する。</li> <li>COVID-19感染拡大下における、大連医科大学(中国)大学院との O-NECUS(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流)プログラム協定による短期留学生、また、Post O-NECUSプログラムでの受け入れによる博士後期受験生の受け入れの可能性について検討する。</li> <li>国内外からの受験生、留学生を増やすために、SNSなども利用した保健学研究科の広報を検討する。</li> <li>多様性を認め合うダイバーシティ教育の視点でボランティア活動を促進する。COVID-19感染拡大下で実現可能なボランティアの方法を検討する。</li> </ul>	9⑤、46①、47②、52②、70④	COVID-19拡大下、文部科学省の社会人の学び直しに係る履修証明プログラムとして認定されているオンラインでリカレント教育「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを実施し、授業料として外部資金を獲得した。また、中四国の産科医療施設への社会貢献のため、施設枠としての受講生の受け入れ制度を新設し地域医療の質の向上に貢献した。また、地方自治体や職能団体と連携して、医療、保健、福祉などに関する公開講座等を複数回開催した。 COVID-19感染拡大下ではあったが、大連医科大学(中国)大学院との O-NECUS(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流)プログラム及びPost O-NECUSプログラムで大学院生を受け入れた。
<b>④管理運営領域</b>		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究科長室会議、運営会議、教員連絡会等の実質化により、ガバナンス機能を強化する。</li> <li>教務委員会、入試委員会、学生生活委員会、広報委員会の4委員会の連携を強化する。</li> <li>外部評価委員会を設置することにより、教育、研究、社会貢献に対する活動の評価を受けるとともに、改善点を踏まえた目標設定につなげるシステムを構築する。</li> <li>優秀な若手研究者を確保するため、テニユア・トラック制の拡大を検討する。</li> <li>若手教員や学生からの意見収集を行うとともに、研究科運営に反映させる。</li> <li>女性教員の高比率の維持と上位職への登用を進める。</li> </ul>	41②、70④	「保健学研究科オープンフォーラム」を開催し、教育・研究・社会貢献活動の発信を行うとともに、外部評価委員会を開催し、教育、研究、社会貢献に対する活動の評価を受け、改善点を踏まえた目標設定につなげるというPDCAサイクルを念頭に置いたシステムを構築した。 優秀な若手研究者を確保するため、テニユア・トラック制での雇用、女性教員の上位職への登用を実施した。